



で咲くサクラソウを「ヒマラヤから流れ着いたお姫様」と評した子どもたちがいたことを思い出します。

ところで「田島ヶ原のサクラソウ」は手厚く保護されていますが、「江川のサクラソウ」はどうでしょうか。

## ☆「サクラソウが残っていますよ」

江川の下流域（桶川市川田谷・上尾市領家）にサクラソウの一大自生地があったことは地元のお年寄りから直接お聞きしたことが何度かあります。小学校の春の遠足は「サクラソウ摘み」だったそうですから。毎年4月にトラスト地のサクラソウを見にこられる桶川市在住の岡野しちさん（88歳）によると、「地平線までピンクに染まっています」。

この辺りではサクラソウを「野花」と呼び、畦道にもたくさん花を咲かせていたそうです。早い話が「雑草」だったのです。

昭和35年以降、江川の縁に道路ができてからは（埋め立てのため）、トラックが何十台も入ってサクラソウを根こそぎ持っていったので、「すでに絶滅した」と聞かされていました。

ところが1988年、市民の希望で「上尾市自然環境調査」が実施されている最中、「桶川市にサクラソウが残っていますよ」という情報が桶川市の植物愛好家の方から寄せられました。

## ☆荒川の三大植物が咲く「秘密の花園」！

早速（財）埼玉県生態系保護協会・副会長のト沢美久先生（植物分類）とご一緒に、教えられた場所へ出かけました。

そこは地目が原野で（原野は開発規制がなにもありません）、広さは約6,000m<sup>2</sup>、クヌギの太木に囲まれ、ノイバラやオギなどが背丈よりも高く生い茂っていて、入口がわからないので所がまわらず分け入ると、ノイバラに引っかかりたりしてそれは大変でした。

やっと中に入ってチョウジソウの大群落に出会いました。この時私は「チョウジソウ」なる花を初めて見たのですが、青空のような花の色に感動しました。

荒川の代表的な三大植物のうち、「チョウジソウ」と「ノウルシ」の群落はすぐみわかりましたが、お目当ての「サクラソウ」はなかなか見つかりません。「偽情報だったのでしょうか？」と一時落胆しましたが、何度も調査に訪れて、ついにノイバラが生い茂る藪の中にサクラソウの葉を見つけました。「あった、あった！」と一同躍り上がって喜びました。「太陽が当たらないから花が付かないのですよ」とト沢先生から教えられ、すぐに草刈りをしました。

翌春、3月末からはまっ黄色の「ノウルシ」群落、4月中旬には「サクラソウ」のピンク、5月には「チョウジソウ」の青紫、6月に「ノハナショウブ」、7月には「コオニユリ」というような見事な大自然の層に、私たちは訪れるたびに驚愕したものでした。

私たちはここを「秘密の花園」と名付けました。

調査が進むに従って、江川下流域には埋め立てから逃れ

た貴重な自然が点々と残されていることがわかりました。

## ☆サクラソウトラスト発足

私たちは江川下流域の貴重な自然を次世代の人々に伝えたいと願い、1990年8月に市民による「サクラソウトラスト」を設立しました。地元の自然保護に理解のある地権者の協力が得られて、地権者と「土地保全協定」（埋め立てをしない約束）を取り交わしてトラスト地が誕生しましたが、たった5アールからの出発でした。

このトラスト活動は辛い活動でした。「土地は金なり」の世相のなかで、私たちの自然を守る活動は地権者の方々には理解が得られ難いものでした。最初にサクラソウの見つかった原野の地権者は7人でしたが、私たちの必死の説得にもかかわらず、一人としてサクラソウトラストへ協力してもらえませんでした。仕方なく一部のサクラソウを隣接地のトラスト地へ移植したりして保全につとめました。

地権者への協力金のための寄付集めも、素人の私たちにとっては相当な負担でした。

## ☆「秘密の花園」全滅

1993年、はじめてサクラソウを見つけた原野の半分の約3,000m<sup>2</sup>が一夜にして産廃捨て場となってしまいました。さらに1995年に残っていた約3,000m<sup>2</sup>が同じ業者の手に落ちそうになっていることがわかりました。私たちはこの自然を残そうと関係行政に働きかけましたが、結局はどうすることもできませんでした。一部はすでに無惨に掘り返されていましたが、「植物と表土を移動したい」と交渉して、隣接地のサクラソウトラスト地へ移動しました。業者を頼んだり、私たちの仲間も仕事や学校を休んで、見捨てられた植物を集め、移植しました。「悲しい引越」とつぶやいた中学生の一言が今でも忘れられません。

このようにして残存していた自然の中でも最も貴重な部分は消えていきました。

## ☆自然の中で汗を流す市民達

しかし、継続的な市民の頑張りで、現在までに17人の地権者と「土地保全協定」を結び、約3ヘクタールの湿地が保全されています。

トラスト地ではサクラソウの咲く環境を守るために、四季折々の作業を市民参加で行っています。

秋が深まるとまずは草刈りからはじまり、原野から草を運び出し、野焼きや耕運作業などが3月まで続きます。

これらの作業は自然を守るイベントとして行うので、一般の方々がトラスト地へ集まってきて青空のもとで汗を流すことで、有意義な休日を過ごすことができます。お昼には大ナベのとん汁が振る舞われます。

もともとトラスト地では春先までの作業しかありませんでしたが、セイタカアワダチソウやオオブタクサなどの帰化植物がトラスト地に侵入して、在来の日本の植物に悪影響を及ぼすこれらの植物の抜き取りや刈り取り作業で、猛